

# 事業報告書

事業名	多様な文化的背景をもつ地域住民（外国人等）に対する総合的な支援をコーディネートする多文化ソーシャルワークに関する調査研究事業
事業の実施状況	<p>本研究は、移民・難民の受入れや支援の実績のある欧米・豪州、そしてアジアの事例を踏まえ、地域共生社会の実現に向け、多文化共生に係る地域課題と制度や相談機関等を総合的にコーディネートする支援体制・仕組みのあり方についての調査研究を行った。多様な文化的背景をもつ地域住民（外国人等）の世帯全体の課題を的確に把握し、支援のコーディネートを行うとともに、多機関・多職種のネットワーク形成を推進する人材の果たす役割・機能を調査、調査結果を分析するとともに、今後の多文化ソーシャルワークの取り組みにかかる示唆としてとりまとめた。</p> <p>本調査研究事業の成果は、調査研究成果を報告書として取りまとめ、関係機関に送付するとともに、2022年3月13日に多文化ソーシャルワークシンポジウムを開催、ウェビナーによるライブ配信および動画のホームページ上での公開を通じて、幅広く周知を行った。</p> <p>■事業スケジュール</p> <p>&lt;2021年&gt;</p> <p>10月～ 企画委員会（東京都内）開催（Zoom）（年度末まで4回開催） ヒアリング調査内容検討・依頼、シンポジウム骨子検討 調査に関する倫理審査の実施</p> <p>11月～ ヒアリング調査実施 （国内4箇所、海外4箇所、計8箇所）</p> <p>&lt;2022年&gt;</p> <p>1月 ヒアリング調査結果分析、シンポジウム開催案内 3月 世界ソーシャルワークデー記念イベントとしてシンポジウム（オンライン）を開催 報告書作成 シンポジウム動画のウェブサイトにおける公開</p> <p>■事業実施体制</p> <p>日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）国際委員会が中心となり、JFSW国際関係サポーターの協力・参加を得て実施した。 （委員名簿は、報告書巻末資料を参照）</p>

## 事業の成果

### 1 調査

本調査は、①外国人等支援における多機関・多職種連携を総合的にコーディネートする支援体制づくり、②コーディネーターとしての人材の果たす役割・機能等について、国内外の先駆的な取組みを通して明らかにすることを目的とした。

調査は国内4機関、国外4機関に対してヒアリング調査を実施した（ヒアリング先は報告書P4を参照）。なお、ヒアリング調査は、公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会倫理審査担当会議における審査を受けて実施した〔受理番号第21-005号〕。

各調査機関へのヒアリング調査結果は、報告書に事例紹介としてとりまとめている（報告書P6～71）。

その上で、調査から明らかになった連携やコーディネーションの取組みの共通点や独自性、課題等について整理する中、連携の体制作りを「①連携のための会議」、「政策決定・制度変革に関わる連携」、「プロジェクトベースの連携」に類型化し、特筆すべき取組み例や課題をとりまとめた。

また、総合的なコーディネートを担う人材について、まずコーディネーター機能を「直接支援のコーディネーター、間接支援のコーディネーター」、「組織内の支援のコーディネーター」に類型化し、どの事例でどのような機能が発揮されたのか整理した。その上で、今後注目すべきコーディネーターとして、「外国人等支援を対象としたコーディネーター：多文化ソーシャルワーカー、多文化コーディネーター」、「地域住民の支援を対象としたコーディネーター：コミュニティソーシャルワーカー」、「各機関の連携体制をつくるコーディネーター」と提示した上で、コーディネーターとして求められる資質・知識・スキルについて整理し、提示した（報告書P72～84）。

その上で、多文化共生社会の推進における地域社会や組織等における課題を整理し、今後に向けた示唆をとりまとめた（報告書P85～90）。

### 2 多文化ソーシャルワークシンポジウムの開催

調査成果に基づき、2022年3月13日に、「多文化ソーシャルワークシンポジウム～総合的な支援のコーディネーション」（オンライン（Zoom ウェビナー））を世界ソーシャルワークデー記念事業として同時通訳付きで開催し、定員300名に対し、308名（国内251名、国外20カ国より57名）が登録、当日209名が参加した。また、シンポジウムを録画し、本連盟ホームページにて動画の公開を行う。

### 3 報告書

調査結果とその分析と今後に向けた示唆をとりまとめるとともに、シンポジウムの開催成果をとりまとめた報告書を作成し、都道府県や関係機関等に配布するとともに、日本ソーシャルワーカー連盟ホームページ（<http://jfsw.org/>）にて公開した。